令和５年度山形県総合教育会議議事録

１　場　　所　　県庁舎10階　１００１会議室

２　日　　時　　令和６年３月13日（水）16:00～17:00

３　出 席 者

知　事　吉村　美栄子

山形県教育委員会

教育長　髙橋　広樹

委　員　山川　　孝

委　員　小関　博資

委　員　工藤　恵子

委　員　和田　弥寿子

委　員　丹治　亜香音

４　協議事項

第７次山形県教育振興計画について

５　議事の経過

司会：教育政策課 副主幹

開　　会

ただ今から、令和５年度山形県総合教育会議を開会いたします。

開会にあたりまして、吉村知事よりご挨拶をいただきます。

吉村知事

本日は、お忙しい中、令和５年度山形県総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃から本県教育行政の充実発展のためにご尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、今回のテーマは、現在教育委員会で検討している第７次山形県教育振興計画とさせていただきました。

県教育委員会では、「人間力に満ち溢れ、山形の未来をひらく人づくり」を基本目標とする第６次山形県教育振興計画に基づき、学校・家庭・地域が一体となって各般の施策に鋭意取り組んでおられます。この６教振が来年度に終期を迎えることから、昨年９月に検討委員会を設置し、新たな教育振興計画の策定に向けて検討していると承知しておりますが、今回はその検討状況をおうかがいし、意見交換させていただきたいと思います。

昨今の子どもたちを取り巻く環境については、少子化の更なる進行や、不安定な経済・国際情勢、ＤＸ・ＡＩの急速な進展など大きく変化しており、子どもたちは、予測困難な時代を変化に対応しながら生き抜いていかなければなりません。教育委員会には、新たな時代に羽ばたき、本県の未

来を切り拓く人材を育成していくため、その道しるべとなるような教育振興計画を策定していただきたいと思っております。
本日は、限られた時間ではありますが、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

協　　議

それでは、協議に入りますが、ここからの座長は、吉村知事にお願いしたいと思います。吉村知事、よろしくお願いいたします。

吉村知事

それでは、暫時の間、座長を務めさせていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。はじめに、資料について事務局から説明願います。

教育政策課長

教育政策課長の安達と申します。私から山形県第７次山形県教育振興計画についてご説明を申し上げます。初めに「第７次山形県教育振興計画の策定について」をご覧ください。
現行の第６次山形県教育振興計画が令和６年度に計画期間の終期を迎えますので、現在検討委員会において次期計画の検討を進めており令和６年度内に策定する予定としております。計画策定の趣旨につきましては、本県教育行政について長期展望のもとに基本的方向性を明らかにし、総合的、計画的な推進を図るため策定するものであり、教育基本法に基づく基本的な計画となるものです。
計画期間につきましては令和７年度からおおむね 10 年間としておりますが、計画の主な構成にあるとおり目指す本県教育の姿などにつきましては概ね 10 年間とし、主要施策等につきましては５年間でローリングするというような作りとしております。
検討委員会委員につきましては有識者 14 名で構成しており、委員長には山形大学の三浦登志一教授にお願いし、これまで検討委員会を３回開催し協議を進めてまいりました。
昨年９月の第１回は本県教育を取り巻く現状、論点整理などを行い、11 月の第２回につきましては本県の教育とウェルビーイングについて、本年の１月第３回目につきましては持続可能な社会の担い手の育成について、それぞれ論点に議論を進めて参ったところです。
今後につきましては、検討委員会を明日 14 日に第４回目を開催し、来年度は４回の開催を予定しており、年度内に来年度内に計画を策定する予定となっております。
続きまして７教振の現在の検討の状況をご説明いたします。資料の３枚目の「第７次山形県教育振興計画について」をご覧ください。左上本県教育を取り巻く社会経済状況につきましては、主なものを記載しております。人口減少の加速化やグローバル化の進展などに加え、今日的な状況として変動性、不確実性、複雑性、曖昧性のいわゆるＶＵＣＡと言われる時代性、それと多様性を背景とした共生社会や社会的包摂への要請、狩猟・農耕・工業・情報に続く、仮想と現実が融合した人間中心の社会として、

Society5.0の到来が挙げられます。

続きまして、第６次山形県教育振興計画期間の現状につきましては、主なものを掲載しております。全国に先駆けて取り組みが始まりました探究型学習については、高校を中心に拡大浸透してまいりました。また、併設型中高一貫校につきましては、東桜学館が平成28年に設立され、庄内地域に致道館が本年４月に開校することとなります。一方で、全国的な傾向ではございますけれども、本県におきましても不登校児童生徒の増加、教員志願倍率の低下などの状況が見られるところでございます。

こうした状況を踏まえ、今後を見据えた主な課題としいたしまして、一つ目「予測困難な時代を生き抜くための変化に対応できる力の育成」いわゆる知識技能等の育成に関すること、二つ目「多様な個人を尊重し、包摂社会に寄与する態度・姿勢を育成」すること、三つ目「ＤＸや少子化、地域との連携等、様々な変化に対応した学びの環境整備」に関することと整理しております。

検討委員会での主な意見でございますが、計画全体への意見におきましては、一つ目「教育全てをウェルビーイングの観点で捉えることが必要」、二つ目「前向きな挑戦を目指す教育的アプローチが重要」、四つ目「学校、家庭、地域・社会が役割分担して連携する必要」があるというような意見がございました。変化に対応できる力の育成に係る意見につきましては、一つ目「子どもたちの判断力や実行力を育てることが重要」、二つ目「主体性について体験等、内発的動機づけや好奇心が重要」、五つ目「失敗を恐れず果敢にチャレンジする学びが重要」の他、「地域の課題や魅力に気づき、魅力のお気付きに繋がることから、地域を知ることは重要」というような郷土愛に関するような意見もあったところです。次に、多様な個人を尊重し包摂社会に寄与する態度を育成姿勢の育成に係る意見ですが、一つ目は多様性の尊重やインクルーシブ教育に関する意見、三つ目「人生100年時代、学び続けることを前提とした人生設計が必要」、五つ目は部活動に関する意見もあったところです。最後に、様々な変化に対応した学びの環境整備に係る意見につきましては、一つ目「教育においてもＤＸはこれからの基盤となるものであり推進すべき」、四つ目「教員のデジタル活用に関する資質向上が必要」など教育のデジタル化に関する意見、五つ目「教員の教職員の働き方改革は大きな課題」というような、昨今の状況も踏まえた意見もあったところです。

右上の図をご覧ください。計画全体意見の中にございましたウェルビーイングにつきましては、単に個人の幸せだけでなく、社会の幸せを感じられることですが、このウェルビーイングを目指すためには県民皆が自分の力を活かしながら前向きに取り組んでいくこと、いわばチャレンジしているということが重要、そういう姿が大事だというようなことを記載しております。

想定される取り組みですが、一番下の青い囲みをご覧ください。社会経済情勢や検討委員会のご意見も踏まえまして現在のところ想定される取り

組みの例としてとりあえず取りまとめたところです。１～３につきましてはいわゆる「知・徳・体」の部分、４、５につきましては学びの機会に関わる部分、６～８につきましては学びの環境に関わる部分として整理しております。

初めに「１自ら考え主体的に行動するする力の育成」につきましては、これまでの取組みを引き継ぎ、改善を図りながら、確かな学力の育成、探究型学習の拡大等に取り組むことが想定されております。「２新たな価値を創造する力の育成」につきましては、時代の変化に対応できる人材の育成として、イノベーションを担う人材育成、アントレプレナーシップ教育（企業家教育）の展開、海外体験学習の実施等が想定されます。「３互いを尊重し前向きに生きる心と体の育成」につきましては、「徳・体」の分野になり、体験学習の充実、感性や郷土愛の育成、体力運動能力の向上、規範意識の醸成等が想定されます。「４それぞれの個性を生かし、尊重した学びの実現」につきましては、特別支援教育や様々な事情を抱えた子どもへのきめ細かな対応として、通級指導や特別支援学級の充実、不登校児童生徒への対応、家庭の事情により学業に影響が生じている子どもへの対応などの取組みが想定されます。「５生涯にわたる学びやスポーツ、芸術文化活動の推進」は、生涯学習等の推進、部活動の地域移行の推進、芸術文化の鑑賞機会の充実等が想定されるところです。「６教育ＤＸの実現」につきましては、既に教育において不可欠となっているＩＣＴの活用に関し、遠隔授業の拡大、教育データの分析活用、教員のＩＣＴ能力の向上等についての取組みが想定されるところです。「７活力あふれる学校の実現」につきましては、教員に関わる部分と、学校に関わる部分を整理しております。教員に関わる部分としましては、教職員の働き方改革、質の高い教員の確保・育成が考えられますし、学校の配置、施設につきましては、高校の再編、学校施設の整備、学校安全の推進などが想定されるところです。「８家庭や地域と一体となった子どもの学びの支援」につきましては、学校、家庭、地域の連携に関する分野で、コミュニティスクールの推進、家庭教育の充実、県立高校と地域が協働した取組みの推進等が想定されるところです。

説明は以上となります。

吉村知事　ただ今事務局から説明がありました。ご質問があれば、後ほど、ご発言の中でお願いいたします。それでは、第７次山形県教育振興計画について、協議していきたいと思います。皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと存じます。はじめに、丹治委員、お願いします。

丹治委員　私からは家庭、地域、学校の役割分担と連携の視点から話をさせていただきます。家庭は子どものしつけ等社会性の出発点となりますが、それを役割分担しようとすると、家庭だけに任せたり、地域だけに任せたり、学校だけに任せたり、きっちり分かれてしまう印象を持ってしまうのですが、そうではなくて重なり合う部分が必ずあると思いますので、二重三重に家

庭、地域、学校がチームになって支えるというイメージを持って対応すること必要だと思っております。

しかし、様々な連携をすることは手段なのです。連携することが目的になってしまい、市町村や地域とも連携して学びの支援を充実したからそれでよしとなってしまわないよう、連携したその先をどうするのかが重要だと思います。社会の環境も変化し、学校の環境も変化し、今まで通用していたことが通用しなくなる場面が多くなってきているので、未来志向の連携をし、連携をしたその先のことを考えてやっていくのが重要ではないかなと思います。

吉村知事　ありがとうございました。続いて、和田委員お願いします。

和田委員　私からは多様性の視点について意見を述べさせていただきます。今、多様な個人を尊重して、それを受け入れともに歩んでいく姿勢が学校教育ではとても大切だと感じておりますが、山形だけでなく全国的に不登校児童の増加というのが大きな問題になっています。それが学校でのことが原因なのか、家庭でのことが原因なのかわからない場合が多いです。現在、私の子どもが通っている学校でもスクールカウンセラーの希望調査が月１回のペースでやってきます。それを親が受け取って記入して、それを子どもが学校に提出するというスタイルなので、家庭が抱える問題であれば提出できるかもしれませんが、子どもが抱える問題の場合はやや不安な面があります。子ども自身がどうしても親に言いにくいような状況もあるかと思いますので、夏休みや冬休みに入る前など機会を捉えて、子ども自身の意見をスクールカウンセラーが拾い上げることが重要だと思います。ヤングケアラーの問題などは特に今の方式だと拾い上げることが少し難しいのではないかと思います。

通級指導や医療的ケア児の支援については、専門知識を持つ方がまだまだ少ないです。特に郡部ではその数はより少ないことから、そのような子ども達が都市部に集まり、そこまでの移動する保護者の不安が大きいだけでなく、中には家族揃って山形市に引っ越す家庭もあり、郡部の人口減少がますます加速する要因の一つにもなっていると思います。やむを得ずそれぞれの学校でケアされている場合は、先生方の不安や負担が増えているのではないかなと感じています。私達保護者もそうですが、先生方も子ども達も身体を整えて心を安定させるということが重要です。

ウェルビーイングを目指すための方策として、教育委員会も含めて様々な対策をとっていくことが重要なのではないかと感じます。

吉村知事　ありがとうございました。それでは続いて工藤委員お願いします。

工藤委員　私からは子どもの挑戦する体験の機会の創出について申し上げます。特にコロナ禍における行事については、中止であったり、延期であったり、

縮小であったりと、そのようなことが余儀なくされ、様々な体験が失われた３年間だったと思います。それがやはり子どもたちの学ぶ意欲と大きく関係していると思っており、児童生徒が何のために学校で勉強するのかがわからなくなってしまい、学校に行くのが面倒になったり、モチベーションを保てなくなるということが起きており、それが不登校、長期欠席の原因になってもいるのではないかなと感じております。何かあれば大事をとって休ませるということをここ何年かしてきていることから、学校を休むことが結構容易にできるようになり、ハードルが下がってしまったように感じております。それによって、体験、経験できなかったことをどうやって取り戻すのかと考えたときに、子ども達には選択肢の中から興味のあることを選択して、モチベーションを高く保ち、意欲的に学んで欲しいと思います。発表の機会、競い合う機会などの体験する機会をたくさん作っていくことがすごく重要だと思います。ただ、教職員の働き方改革を進めていく中にあるので、やはり民間活力、地域の人材の活用ということが非常に重要になってくると思います。例えば、今検討されている部活動の地域移行などもそうですが、取り組める地域の人材がこれからどんどん必要になってきますので、人材育成にも力を入れていく必要があると思います。

いずれにせよ、やはり学校で学ぶということが何にも変えられない経験になることから魅力的な学校作りが必要だと思いますので、子ども達だけでなくそれに関わる大人もわくわくできるような新しい取組みが必要だと思っております。また、県立高校の魅力をもっと発信し、ぜひ県立高校で学ぶ高校生を増やしてほしいと思います。

吉村知事　ありがとうございました。それでは、小関委員お願いいたします。

小関委員　私からはＤＸの件でお話したいと思います。先月、長井市でＤＸコンテストが開催されました。昨年までの５年間、長井ビジネスチャレンジコンテストという名前で地元の起業家を育成しようという試みで行われていたものですが、今年からＤＸコンテストという名前に変えて行われました。参加者については、昨年までは大学生が少しいるぐらいで大体は大人だったのですが、今年は中学生と高校生もおりました。中学には地域ＩＣＴクラブというものがあるようですが、中学生から見た長井市の現状とＤＸを導入するとどのように暮らしやすくなるのかプレゼンがあり、ＤＸの趣旨を地域で共有することができ、感心させられるプレゼンとなっておりました。

県外の高崎経済大学の女子学生からは非常に変わった発表がありました。長井は飲み屋さんが多いのですが、外国人観光客から日本のスナックが注目されているとのことです。ママさんがいておもてなしをしながらカラオケしたりというのは海外にはないらしく、外国人観光客は好んで日本のスナックに行きたがるらしいのです。そこで外国人観光客にアピールするため、スナック体験アプリというのを作ったらどうか提案がありました。

仮想空間の中で、長井のスナックのママさんがこういうことをしてくれて、こんなふうに楽しめるというように疑似体験できるものを作り、観光客を増やしたらどうかというものでした。このプレゼンをしたのが女子学生だからまた面白いと思います。

また、私の知り合いのガス屋さんが、プロパンガスが空になったら、現場に行かなくてもインターネットでわかるようにし、人手が大幅に少なくて済むようになったという事例を発表しました。そのプレゼン資料はパワーポイントの見事なものだったので、どうやって作ったのか聞いたら、本人はパワーポイントを使ったことがなく生成ＡＩで作ったとのことでした。生成ＡＩを使うとこんなに綺麗にできるのかと感心しました。

ＤＸコンテストはいろいろ新しい発見があって面白かったので、そういうコンテストを県内各地域で広くやったら面白いのではないかなと感じました。教育の現場でも、難しく考えるよりも楽しみながらやるということがあったらいいなと思いました。

吉村知事　ありがとうございました。それでは、山川委員お願いいたします。

山川委員　教育振興計画は10年が一区切りだと思いますが、20年30年後を見据えた基本方針を策定すべきだと思います。予測困難な時代を見据えて、人口減少、少子化の加速は確実に予測できる状況だと思います。例えば６教振のときにコロナでこんな風になることは全く予測できなかったわけですが、人口減少・少子化の流れは確実に予測できております。その中で、公立の高等学校の果たすべき役割がどこにあるかというところに焦点を絞って、お話させていただきます。

各地の県立高等学校は、従来、その地域において人材育成の中心的な機関、役割を担ってきたということは間違いないです。かつて子どもたちがいっぱいいた時代は、高等学校が存在すること自体が地域の魅力だったという時代だったと思います。高校の魅力化をどうしようか考えなくとも魅力があり、地域の経済、文化の中心的な役割を果たす機能もあったと思います。

さて、今はどうなんでしょう。志願者数が定員に達しない高校がたくさんあります。定員を満たしている学校は３校ぐらいですね。これは県立高校の配置と規模の適正化の問題かなと思っております。少ないなりの人数でやり方があるということは一応理解してはいるのですが、県立高校はやはりある程度の人数がいないと、魅力的ではないと思っております。６教振では４学級から８学級を望ましい学校規模としていたと思います。今現在もそんなに変わらないと思います。これまで統合もしてきたし、募集定員を減らしたり、学級数を減らしたりと対応してきましたが、それでは魅力ある学校にはならない、かえって魅力がなくなるという感想も持っております。

山形市内に複数の県立高校があって、その周辺の寒河江、山辺も入れる

とかなり高校があります。誤解を恐れずに言えば、大胆な高校再編整備を考えてもいいのではないかと思っております。10 年先に考えたのでは遅い、いま具体的に考えていくべきだと思っております。例えば、山形市内の高校は形式的には男女共学校にはなっていますが、実質的な男子校であったり、実質的な女子校があります。これは、統合も含めて見直してもいいのではないかと思います。仙台では 10 年前にやっており、福島もやっております。全国的にそういう流れになっていると思っております。それから職業学校については、山形工業高校、市立商業高校もあるし、寒河江にも職業的な学校がありますが、横断的な統合再編を考えてもいい時期ではないかと思っております。

芸術系高校、体育科のある高校もありますが、これまでも素晴らしいことをやってきました。しかし、今年度、山形北高の音楽科推薦が 10 人で一般受験が 1 人しかおらず、40 人定員のところに最大 11 人しか入ってこないという状況です。このままなくなることは非常にもったいないので、やはり芸術系、体育科のある学校も、統合の話をしてもおかしくはないと思っております。

鶴岡南と鶴岡北を統合し中高一貫の致道館となりますが、東桜学館を見れば、おそらくかなり成果が上がるんだろうなと思います。単に統合するだけではなく中高一貫校としながら魅力作りも必要だし、従来の先入観を除いて大胆にやっていかないといけないと思っております。我々はかつての伝統や先入観にとらわれて物事を見てしまいがちですが、そのような状況ではないと思います。10 年後に子どもが 20%減ることを見据えた取組みが必要だと思います。

小規模校についても、地域の人たちが何とか頑張って残したい、その地域の中核の場所だったので残したいという気持ちは非常によくわかりますが、その周辺に住んでいる生徒や親御さんもその学校に入りたいと思ってるのか非常に疑問です。地域の人たちが行きたい学校でなければ、魅力化にもつながらないと思います。

高校再編についてはかなり大胆にやってかないとまずいだろうなと思い、半ば極論のようなことになってしまいましたが、述べさせていただきました。

吉村知事　ありがとうございました。それでは次に、髙橋教育長お願いします。

髙橋教育長　知事のご挨拶にもありましたが、やはり社会が大きく変化をしているという中で、そういう変化にしっかりと子どもたちが対応していく、向かっていくという力をつけることが今の教育に求められていると思いますので、コロナ禍でデジタル化が大幅に進んだという環境の変化もありますから、時代の大きな転換点に立っているという問題意識をしっかり持ち、未来志向で計画を作っていく必要があると考えております。

そういう中でウェルビーイングという考え方がありますが、これは個人

の幸せというのも大事ですが、社会も幸せになって初めて個人も幸せになっていく、そのようなことを大切にしながら教育を進めていく必要があるということだと思いますし、多様性を大事にしながら持続的な社会が作り上げられていくものと考えております。県民みんなが、教育という視点で様々な役割を持っているということを認識してほしいと考えております。先ほど地域連携が大事だという視点がありました。教育は学校だけではないという視点も当然あり、家庭こそが学びの原点であるというような考え方もあろうと思います。７教振を検討していく中で、それぞれがそれぞれの役割をしっかり認識し、当事者意識をしっかり持って取り組めるよう、その動機づけとなるような計画にしていく必要があると考えています。

ＤＸは、いい意味でいろんな人の声をまっすぐ拾える仕組みなのではないかと思っています。各生徒、先生方に１人１台パソコンが入りましたが、これは子どもから直接その声を聴くことができるという仕組み、先生方の声、考えを直接拾うことができるという仕組みだと考えますので、その仕組みを通して現場のニーズ、問題を把握し、具体的な改善策につなげていくという視点が大事なのではないかなと思っています。子どもの学びの原点は驚きとか感動であり、それが学びを引き起こすものだと思っております。そういう意味でもデジタルは、時間を超えて場所を超えて、今までつながらなかった海外、地域につながることができますので、学校現場でのデジタル化を進めていく必要があります。そのためにも先生方のデジタルに対する理解をさらに深めていく必要があるのではないかなと思っています。

県民みんながそれぞれの役割の中で、子どもたちの行く末、地域の行く末を教育を通して考えることがとても大事な時代になっております。そういう想い、考えを県民の皆さんにメッセージとして伝えられるような計画作りをし、そういう思いが具体的に取り組みとしてつながっていくような政策を作ってまいりたいと考えております。

吉村知事

最後に私からも発言させていただきます。皆様から第７次山形県教育振興計画について貴重なご意見ご提言をいただきありがとうございました。

山形県が持続的に発展するということが一大ミッションであると私の立場では思っております。そのためにどうしたらいいか、県民の皆さんにいろんなところで申し上げていますが、常に変化している状況でありますので、果敢に変革にチャレンジしてほしい、チャレンジを続けていくことが山形県を強くするというようなことを申し上げてきているところであります。時代は変化しますがそれを前向きに捉えて、柔軟な発想と勇気ある行動で、ピンチをチャンスに変えていくような、県民１人ひとりのチャレンジが大事でありますので、子どもたちにもそういった気持ちを持ってもらいたいなというふうに思っていましたが、小関委員のお話を聞きますと、あまり構えないでいろんなことに取り組んでいく必要があるのかなと思いました。子どもたちをしっかり見つめて、現状を見つめて、どうなってい

るのかしっかりと見つめて、大いに第７次山形県教育振興計画に生かしてほしいなと思ったところです。

２点目です。デジタル化が進んでいますが、ChatGPT、生成ＡＩを県庁でも活用し始めました。ところが若い人たちはどんどんと先を行っているのではないかなと思っております。知恵や体験は年配者の方がたくさん持っていますが、デジタル技術ということに関しては若い人や子どもの方が、身に付いています。先生方のデジタル活用に関する資質向上は必要ではありますが、場合によっては生徒から教えてもらうぐらいの気持ちがあっていいのかなと思います。教育現場でも柔軟にやっていって、その上をいかなきゃいけないとなると大変窮屈な現場になるのではないかなと懸念をしております。社会全体でデジタルは若い人が得意だから、例えば生徒が先生になってもありだなというと思ったりします。高齢者の皆さんに、若者からちょっと教えてもらうようにしましょうという環境作りもしております。私、スタンフォードに公務で行ったことがあって、１時間半ぐらい講義を受けました。その授業の中で、ベンチャーの話だったのですが、ベンチャーの子どもはベンチャーになるのだそうです。子どもは親を見て育っているから、中学生ぐらいから起業してみようというようなことをやらせて、取り組むのだそうです。山形県の郡部の方に行くと社長さんが少ないのですが、オンラインとかデジタルを活用して社長さん、弁護士さんなどいろんな方々に接してもらいたいと思います。本当に多くの子どもたちに、疑似体験してもらいたいと思っております。

３点目ですが、日本の場合は災害が多発し、毎年のように激甚化、頻発化していますが、世界的に見ると戦争が２か所で行われております。そういった局面がいつ、子どもたちに降りかかってくるかわからない。そうなったときにいかに対応できるかを考えた場合、それはオンラインではないだろうと思います。災害ならば防災訓練、自然界の中でいろんなことを体験させることが子どもを成長させます。そういったことにも力を入れてほしいと思います。学力だけでなく、様々な体験ということをしてもらいたいと思ったところです。

４点目の県立高校の再編整備についてですが、人間に焦点を当てていると山川委員の言うようなことになります。しかし、山形県は山形県民と山形県土から成り立っています。県民の多くいるところに、大胆に統合再編すると、県土がどんどん活用されなくなり過疎化してしまい、学校がなくなると人が住まなくなります。高校があったから子どもを入れられると思って移住してきたという話を複数の人から聞きました。山形県を持続的に発展させていくことを考えたとき、県土の活用も大事なことですので、学校をどうやって維持していくのか、現状そのままとは申し上げませんが、どんどん再編統合され、これ以上統合したらどうなるのかなと思ったときに、やはり行政としては過疎化を懸念するところです。いろんな手立てを講じて地域の小規模校でも子どもたちが学んで生きていけるようにしていきたいと思っております。

本日は本当にいろいろなお話をお聞きできて大変参考になったし、参考にしていかなければいけないと思ったところです。ありがとうございました。

吉村知事　時間となってしまいましたが、これだけは申し上げたいというものがあればお願いします。

小関委員　去年、岩手に新しくできたハロースクール安比校というインターナショナルスクールを見てきました。小学校６年から高校３年まで、年間学費１千万円という非常に高い学費を払って入る学校でした。学生は４割が日本人で残り６割は海外からだったのですが、本県でも外国からの留学生を受け入れてはどうかと思いました。

日本は確かに少子高齢化していて人口が減っていくのかもしれないですが、海外は逆に人口が 100 億人まで増えようとしています。増えすぎて人口を許容できなくなっている国もあるだろうと考えれば、海外からの受け入れができる国際高校を設置してはどうかと思うのです。東京都立、奈良県立の国際高校があります。他にも私立ではありますがクラーク国際記念高校というところで留学生を受け入れております。新潟に新しくできた開志国際高校がバスケットで急に強くなって日本一になりました。海外からの留学生が来て強くなっていますが、アスリートコースというものがあるようです。

山形にもそのような国際高校が欲しいなと思っていて、米沢工業高校の校長先生に合併するにあたって「国際」を入れてくださいと言ったことがあります。入らなかったですけど。国内や県内で生徒の取り合いをしてる場合ではなく、海外からの留学生も受け入れるような学校を考えてほしいと思ったところです。

吉村知事　皆様から様々な視点で貴重な意見をいただきました。本当にありがとうございます。以上で協議を終了とさせていただきます。

閉　　会　以上をもちまして、令和５年度山形県総合教育会議を終了いたします。お疲れさまでした。